

今後は箱物から人への施策転換を

令和8年度一般会計予算について



吉野文泰 議員

村長 村政の適切な運営を第一に考えていく

増やすために特色ある教育・魅力ある教育を教職員に投げます。村外からの通学者を続が一番の優先項目と考えます。村外からの通学者を続が一番の優先項目と考えます。村外からの通学者を続が一番の優先項目と考えます。

規に予算計上しました。買物支援事業補助金を新作成し、ほかには高齢者等確認の緊急ガイドラインを児童委員の協力を得て安否に繋がっています。民生・食サービス等の利用者増加している「バトン訪問」で配食サービスの利用が増加している「バトン訪問」で配食サービスの利用が増加している「バトン訪問」で配食サービスの利用が増加している。

高年齢者支援への新たな取組がありますか。

高年齢者支援への新たな取組がありますか。高年齢者支援対策として社会福祉協議会が実施している「バトン訪問」で配食サービスの利用が増加している「バトン訪問」で配食サービスの利用が増加している「バトン訪問」で配食サービスの利用が増加している。

生活基盤の整備は令和8年度予算にどのよう反映されていますか。

令和7年度は前年度と比較して150万円以上増えました。令和8年度も確実かつ効率的な運用を堅持します。

令和7年度財政調整基金運用利率と、令和8年度財政調整基金運用利率について伺います。

物理的環境・人的環境・制度的の3つの要素があり、これを充実していくことと、出生数は人的環境の大きな要因となります。が、小中一貫校を推進し、異学年の子どもと関わることで同学年の友人がいない状態を改善したいと考えています。

物理的環境・人的環境・制度的の3つの要素があり、これを充実していくことと、出生数は人的環境の大きな要因となります。が、小中一貫校を推進し、異学年の子どもと関わることで同学年の友人がいない状態を改善したいと考えています。

令和11年度に施設分離型、令和13年度に施設一体型の小中一貫校の開校を目指して、令和8年度から準備を進めます。その中で教職員の方々を中心に魅力・特色ある教育・教育課程や学校の運用について協議し、よりよい学校教育を実施出来るよう進めてまいります。

4名の議員が一般質問
村の行財政全般について執行部に考えを聞くのが一般質問。ここでは、議員本人が要約したものを掲載しています。

消防団員減少に伴う影響はいかに！

消防団の現状と課題等について



野口勝則 議員

村長 団員数の減少により車両数の見直しは必要！

表1 比企広域組合各消防団の現状 (令和7年4月1日現在)

	基本団員の実数	運用されている消防車両の台数	車両1台に対する団員数
東松山消防団	84人	6台	14.00人
滑川消防団	59人	4台	14.75人
嵐山消防団	96人	5台	19.20人
小川消防団	124人	8台	15.50人
吉見消防団	86人	6台	14.33人
ときがわ消防団	114人	8台	14.25人
東秩父消防団	86人	9台	9.56人

※基本団員の実数からは機能別団員を、消防車両台数からは本部広報車等を除く

表1の通り、他の消防団の平均は約15.34人で、東秩父消防団は他の団の平均人数より約40%少ない人員で運用されています。このことから、東秩父消防団の団員の負担が大きいと考えられます。また、現状を踏まえ、次のことを伺います。



個人的には各大字に1台の計6台程度、山腹への防火水槽の建設は必要性を考慮し検討したいと考えています。消防団や区長の意見を踏まえ、消防水槽の建設及び車両数の削減を決定したいと思います。

また、将来的な人口減少を考慮すれば、車両配備数を4台まで縮減することも視野に入れています。また、本村よりも人口密度も高く、人口や世帯数も多い滑川町では4台、嵐山町では5台の配備であることから、平地での建物火災であれば東秩父消防団でも4〜5台で対応可能と考えております。また、避けるられない状況から、山腹への防火水槽の建設や、消火活動時の応援体制の構築を併せて行っていく必要があると思っております。村の考えは。